

各 位

社団法人 日本環境アセスメント協会
教育研修委員会委員長 新里 達也
セミナー委員会委員長 中林 純

<一般公開>

2011年 JEAS第8回技術交流会 開催のご案内

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

今年も会員相互の技術交流及び業務の活性化並びに会員の有する環境アセスメント関連技術の内外への発信等を目的として、口頭発表及び展示発表を行います。

会員、会員外を問わず、多数の方々にご参加頂きたくご案内申し上げます。

敬具

記

- 開催日時 平成23年12月1日(木) 13:00~18:00
- 開催要項 口頭発表及び展示発表、別紙プログラム等参照
- 会場 ルポール麹町 マーブルの間 会場案内図参照
〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-4-3 TEL03-3265-5361
- 参加費 無料
- 募集人員 100名 先着順(定員になり次第、締め切ります。)
- その他 この技術交流会はJEAS-CPD制度の認定プログラム(8単位)です。
環境アセスメント士の方は登録番号を記入してお申し込みください。
- 申込方法 申し込みフォームhttps://www.formlan.net/s_form/asekyo01_1/もしくは添付の
申込書に必要事項を記入し、FAXして下さい。

2011年 JEAS第8回技術交流会 申込書

下記のとおり、技術交流会の参加を申し込みます。

宛先：社団法人日本環境アセスメント協会 FAX：03-3230-3876

E-mail：jeas@jeas.org

会社名			
住所	〒 - 電話 - -		
参加者氏名	計 名		
番号に○をして下さい	1. 会員 2. 非会員	環境アセスメント士 登録番号	

別紙 1

2011年 JEAS 第8回技術交流会プログラム

2011年12月1日(木)、ルポール麹町 マーブルの間

13:00~13:15	開会挨拶、展示紹介
-------------	-----------

【口頭発表】

1	13:15~13:35	関根秀明 (株)建設技術研究所 河川における植生消長予測モデルの研究
2	13:35~13:55	桑原久実 ((独) 水産総合研究センター) 磯焼けの現状と修復策
3	13:55~14:15	永尾謙太郎、竹内一浩 (いであ株) コンピューターシミュレーション技術に関すること
4	14:15~14:35	後藤浩一 (株)環境総合テクノス CCS モニタリングシステムの開発
5	14:35~14:55	井出修 (応用地質株) 災害・環境リスク情報のデータベース化とその活用

<展示発表 : 14:55~15:20>

6	15:20~15:40	PHAM VAN PHUC (ファム バン フック) (清水建設株) GPGPU の活用による超高速光環境シミュレーションの開発
7	15:40~16:00	林正己 (東電環境エンジニアリング株) POINTSCOPE を使った生態調査手法について
8	16:00~16:20	杉本英夫 (株)大林組 木片コンクリートによる環境緑化技術
9	16:20~16:40	吉村卓弥 (ムラタ計測器サービス株) PM2.5 の成分分析について
10	16:40~17:00	岩崎勢津夫 (株)蕪村 現地調査ソフト エッグモバイルのご紹介
11	17:00~17:20	塚原啓司 (東武タウンソラマチ株) 東京スカイツリータウンの低炭素化に向けて

17:20~17:30	閉会挨拶
-------------	------

<展示発表 : 17:30~17:45>

【展示発表】

13:00~17:45	【展示会社・団体】 (順不同) ○(株)環境照合テクノス ○NPO 法人野生生物調査協会・(株)地域環境計画 ○(社)日本環境アセスメント協会
-------------	--

(注) プログラムは変更する場合があります。

別紙 2

2011 年 JEAS 第8回技術交流会

口頭発表・要旨

■口頭発表内容の詳細について、問い合わせ・資料の請求等は発表者のメールアドレスに直接照会下さい。

【口頭発表】

(1) 関根秀明

(sekine@ctie.co.jp)

所属：(株)建設技術研究所

演題：河川における植生消長予測モデルの研究

内容の要約：

河川における計画的な樹木管理の必要性の観点から、木本類の生長と河川の流出機構の平面二次元河床変動計算モデルへの組み込みによる河川消長モデルの検証と予測の手法を紹介する。

(2) 桑原久実

(kwhr@fra.affrc.go.jp)

所属：(独) 水産総合研究センター

演題：磯焼けの現状と修復策

内容の要約：

「磯焼け対策ガイドライン」(2007年2月 水産庁)の紹介と、ガイドラインを踏まえた成功事例について解説する。

さらに、最近の藻場や磯焼けの現状、および磯焼け対策に関する要素技術、藻場回復の成功事例を紹介する。

(3) 永尾謙太郎、竹内一浩

(nao20503@ideacon.co.jp)

所属：いであ(株)

演題：浮遊系-底生系結合生態系モデルを用いた有明海で野貧酸素水塊形成機構の支配要因の解析

内容の要約：

有明海を対象に浮遊系-底生系結合生態系モデルを構築し、7年間にわたる非定常の連続計算(再現計算)を実施した。有明海の貧酸素水塊の挙動は経年的に異なる動態であることが

示され、大潮-小潮変動や出水の有無にも大きく依存している姿が再現されていた。また水中、底泥等の酸素消費プロセスが定量化された。

(4) 後藤浩一

(goto_koichi@kanso.co.jp)

所属：(株)環境総合テクノス

演題：CCS モニタリングシステムの開発

内容の要約：

当社が開発している海底下へのCO₂貯留(海底下CCS)に関わるモニタリングシステムの紹介を行う。

(5) 井出修

(ide-osamu@oyonet.oyo.co.jp)

所属：応用地質(株)

演題：災害・環境リスク情報のデータベース化とその活用

内容の要約：

弊社では、土壤汚染や自然災害等に関するリスク情報をデータベース化している。このようなリスク情報は、環境調査や不動産市場における土地取引の参考情報・基礎情報として活用できると考えている。本技術紹介では、情報データベースの概要及びその活用事例について報告する。

(6) PHAM VAN PHUC (フナム バン フック)

(p_phuc@shimz.co.jp)

所属：清水建設(株)

演題：GPGPU の活用による超高速光環境シミュレーションの開発

内容の要約：

道クラウド技術やグラフィック処理ユニット(GPU)と建物の3次元設計データを駆使し、ウェブ画面上で建物内外の照明や採光などの光環境を写真並みの画質で素早く可視化でき

別紙 2

る超高速光環境解析システムを開発した。このシステムにより、従来数時間を要していた光環境の可視化を数秒から数分で行えるようになるとともに、設計者と発注者との新たなコミュニケーションを創出し、その概要について紹介する。

(7) 林正己

所属：東電環境エンジニアリング(株)

演題：POINTSCOPE を使った生態調査手法について

内容の要約：

道 POINTSCOPE (ソーラー電源型画像伝送カメラ) の紹介

- ・海上や寒冷地、山間部での運用実績
- ・猛禽類の営巣監視、森林保全の現場への提案。

(8) 杉本英夫

(sugimoto.hideo@obayasi.co.jp)

所属：(株)大林組

演題：木片コンクリートによる環境緑化技術

内容の要約：

木片コンクリートは、木質バイオマスとセメントを練り混ぜて加工し、一般的には建物の壁や屋根下地などの建築材料に利用されます。これを土木工事に利用した環境緑化技術は浸食制御の効果が高く、CO2 固定にも寄与します。技術の特徴や適用事例、今後の課題について紹介します。

(9) 吉村卓弥

(yoshimura@murata-s.co.jp)

所属：ムラタ計測器サービス(株)

演題：PM2.5 の成分分析について

内容の要約：

環境基準が設定された微小粒子状物質 (PM2.5) については、対策の検討のため、質量濃度の測定に加え、成分分析を行うことが求められている。

平成 23 年 7 月に策定された「成分分析ガイドライン」に基づく成分分析について、その概略

と当社の経験に基づく知見をご紹介する。

(10) 岩崎勢津夫

所属：(株)蕪村

演題：現地調査ソフトエッグモバイルのご紹介

内容の要約：

エッグモバイルのコンセプトは、現地で誰でもかんたんに、すばやく入力できること。そのため随所に現場の意見を取り入れた工夫が盛り込まれています。調査対象物に合わせてポリゴンなどのオブジェクトを作図、属性入力する機能やナビゲーション機能、計測機能などの機能に加え、地図に直接手書きできる機能や撮影した画像にメモ書きできる機能など、足場の悪いところでの入力に対応できるよう工夫されています。

この製品のご紹介をさせていただきます。

(11) 塚原啓司

(k-tsukahara@tobu.co.jp)

所属：東武タウンソラマチ(株)

演題：東京スカイツリータウンの低炭素化に向けて

内容の要約：

省 CO2 に向けて、東京スカイツリータウンの地域冷暖房と街区との連携と導入される技術について

別紙 3

2011年 JEAS 第8回技術交流会 展示発表の内容

No.	展示会社・団体 (申込み順)	測定・分析技術	調査・予測解析技術	コンピュータ・シミュレーション技術	環境情報の処理技術	GIS等の技術	環境保全措置の技術	コミュニケーション技術	その他、環境アセスメント	備考 (展示内容)
1	(株)環境総合テクノス 「CCSモニタリング技術開発の紹介」		○						○	CCSのモニタリング技術を紹介し、実際の観測例を紹介する。 また、当社が実施してきた海洋調査や標準物質などの技術を紹介する。。
2	NPO法人野生生物調査協会 (株)地域環境計画 「日本のレッドデータ検索システム・高機能自動撮影カメラ」		○					○		<ul style="list-style-type: none"> 日本のレッドデータ検索システムは、国および地方自治体が公表しているレッドリストを網羅した検索システムで、現在120万pv/月を記録しています。 哺乳類などの自動撮影に便利な、高機能自動撮影カメラの利用方法等を紹介します。
8	(社)日本環境アセスメント協会								○	JEAS協会活動の紹介、頒布図書の紹介